

第3回 生活習慣病教室

「激しい頭痛！さあどうしよう？～脳神経外科編～」

■日 時：平成22年6月8日（火） 14時～15時

■講 師：脳神経外科 竹下医師

今回で第3回となる生活習慣病教室では、おなじみの顔ぶれや、新しくお友達を連れて参加して下さる方もいました。

今回のテーマは「頭痛」ですが、頭痛には種類があり発症の原因も治療もそれぞれ異なります。勝手な判断が間違えていると、症状は悪化し最悪の事態を引き起こしますので少しでも不安に感じたら主治医に相談しましょう。

頭痛の種類について、一般的に多い「緊張型頭痛」「片頭痛」「群発頭痛」について特徴をご紹介します。

【緊張型頭痛】

- ・頭の後ろからてっぺんあたりが痛い・毎日頭痛がする・後ろ頭や頭全体を締め付けられるような感じ・頭がバンバンに張ったような感じがする・重苦しく、メマイを伴う・お風呂に入ったりお酒を飲んだりして血の巡りが良くなると軽くなる

【片頭痛】

- ・眼のまわりやこめかみ、額のあたりが痛い・ずきずき、ガンガン、ドキンドキンなどと血管の拍動する感じで痛い・お風呂に入ったりお酒を飲んだりして血の巡りが良くなると悪化・吐気や嘔吐がある・光や音が頭に響く

【群発頭痛】

- ・片目の奥がえぐられるようなひどい痛み・お風呂に入ったりお酒を飲んだりして血の巡りが良くなると悪化・吐気はない・季節の変わり目に痛くなりやすい・鼻水や充血、流涙などがある
- 以上のような症状が一般的ですが、当てはまらないような経験のない症状（今までにない痛み）がある場合は、くも膜下出血などの怖い病気の恐れがあります。

【くも膜下出血】

- ・クモ膜と軟膜の間の空間「クモ膜下腔」に出血が生じ、脳脊髄液中に血液が混入した状態をいいます。全脳卒中の8%を占め突然死の6.6%がこれに該当すると言われ、高齢者よりむしろ壮年期の人に多いとされています。また一度起こると再発しやすいという特徴があります。講義の中では動画を使って手術の様子も紹介しました。

「様子をみてから」と思っていると手遅れになる可能性のある一刻を争う病気です。迷わず急いで主治医に連絡しましょう。

以上